

- 問1 1997年に施行された「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が、それ以前の政策から大きく転換した点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. アイヌの人々の居住地を北海道に限定し、伝統的な狩猟や漁業の権利のみを保障する方針に転換した。 | 2. アイヌの人々を日本人に同化させることを目的とし、日本語教育を義務づける方針に転換した。 | 3. アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。 | 4. アイヌの人々に対して金銭的な補償を行うことで、すべての歴史的課題を解決する方針に転換した。 |
|---|--|---|--|
- 問2 北海道における人口分布の変化について、1950年から2010年までの統計的な傾向を説明した文として正しいものはどれですか。なお、この期間において北海道全体の人口は約430万人から約551万人へ、札幌市の人口は約62万人（1960年）から約191万人へと推移しています。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 札幌市の人口は1960年から2010年にかけて、北海道全体の人口増加分を補えないほど減少した。 | 2. 道内人口に占める札幌市の割合は、1960年から2010年にかけて一貫して減少傾向にある。 | 3. 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。 | 4. 北海道全体の人口増加に比例して、道内すべての市町村の人口が均等に3倍以上になった。 |
|--|---|--|--|
- 問3 積雪の多い地域の道路で見られる、道路の上方に矢印を掲げた「固定式視線誘導柱」という標識について、その仕組みや必要とされる背景を説明した文として適切なものはどれですか。（2021年 兵庫県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 雪の重みによる路面の変形を確認するため、道路の測量地点を高い位置から特定しやすくする仕組み。 | 2. 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。 | 3. 地吹雪による視界不良を防ぐために、道路脇に設置された防雪柵が作動する範囲を運転者に伝える仕組み。 | 4. 路面が凍結しやすい場所に設置され、気温が一定以下になると矢印が自動的に発光してスリップ注意を促す仕組み。 |
|---|--|---|---|
- 問4 日本の国内における旅客輸送の状況について、東京都から北海道への移動を事例として説明した文として、適切なものはどれか。（2022年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 環境負荷を低減する目的から、二酸化炭素排出量の多い航空機の利用が制限されており、鉄道が唯一の公共交通機関となっている。 | 2. 長距離の移動となるため、速達性に優れた航空機の利用が主流となっているが、新幹線の延伸などにより鉄道も重要な役割を担っている。 | 3. 青函トンネルの開通以降、鉄道による輸送コストが大幅に低下したため、航空機から鉄道への利用転換が完全に完了している。 | 4. フェリーを利用した海上輸送が旅客輸送の中心であり、航空機や鉄道は補完的な手段として位置づけられている。 |
|--|---|--|--|
- 問5 日本の乳牛飼育において、飲用として出荷される牛乳の生産地が、千葉県、神奈川県、愛知県といった大都市の周辺に多く見られる理由として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 大都市の周辺は北海道に比べて土地代が安く、乳牛を放牧するための広大な土地を確保しやすい環境にある。 | 2. 法律によって、飲用牛乳は消費地と同じ地方自治体の中で生産・処理しなければならないと定められている。 | 3. 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。 | 4. 飲用牛乳は加工用生乳に比べて重量が軽く、輸送コストがほとんどかからないため、あえて都市部で生産されている。 |
|--|--|--|--|
- 問6 北海道の石狩平野では、かつて激しく蛇行していた石狩川の流路を、人工的に作り替える大規模な治水工事が行われました。このような「河川の直線化」が行われた主な理由と、その後の土地利用の変化について説明した記述として最も適切なものはどれですか。（2021年 神奈川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 内陸部への大型船の通航を可能にし、水上交通を利用した工業地帯を形成するため。 | 2. 水力発電のための貯水池を確保し、周辺に製紙工場を誘致して工業化を進めるため | 3. 川の流れを緩やかにすることで土砂を堆積させ、大規模な果樹園を造成するため。 | 4. 洪水の被害を軽減して水を速やかに海へ流し、泥炭地を排水して農地を拡大するため。 |
|---|--|--|--|
- 問7 日本の各地域における農業産出額の内訳を比較すると、北海道は東北地方などと比較して「畜産」が占める割合が非常に大きいという特徴があります。北海道において、特に根釧台地などを中心に大規模な畜産業が発達した背景として最も適切なものはどれですか。（2019年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 大消費地である東京に隣接しており、新鮮な果物や野菜を毎日トラックで即座に出荷できる立地条件であったため | 2. 広大な土地を活用した大規模経営が可能であり、冷涼な気候が稲作よりも乳牛の飼育に適していたため | 3. 温暖な気候を利用して、一年に二度同じ土地で稲を栽培する二期作を行うよりも効率が良かったため | 4. 急峻な山地が多く機械化が困難なため、人の手による労働集約的な飼育が伝統的に行われてきたため |
|--|---|--|--|
- 問8 石狩川流域では、かつて植物が完全に分解されずに堆積した「泥炭地」と呼ばれる湿地が広がっていました。この土地を大規模に開発し、農地や市街地として利用するために行われた工夫として、最も適切なものはどれですか。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う | 2. 地面の下にある岩盤を削り、土地を平坦にしてから地下水を注入する | 3. 周辺の山々から大量の水を流し込み、人工的な湖を作って水運を盛んにする | 4. 大規模な植林を行い、地中の水分を吸収させて森林面積を拡大させる |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
- 問9 北海道の地形的特徴について述べた文として、正しいものを次の記述から選びなさい。（2024年 岡山県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 襟裳岬から北へ向かって飛騨山脈が延びており、道内最高峰の山々が連なっている。 | 2. 石狩低地帯の西側には奥羽山脈が連なり、大規模な稲作地帯を形成している。 | 3. 十勝平野の西端には赤石山脈が位置し、冬の季節風を遮る役割を果たしている。 | 4. 石狩低地帯の東側には日高山脈が南北に走り、地域の地理的境界線となっている。 |
|---|--|---|--|
- 問10 北海道の北部に位置しながら、上川盆地で稲作が盛んに行われている理由について、この地域の気候の特性から説明した文として最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 内陸のため夏は比較的气温が上がり、稲の成長に必要な熱が得られる内陸性気候であるため | 2. 季節風の影響で一年中雨が多く、灌漑施設に頼らずに水田に水を引くことができるため | 3. 標高が高いため、夏でも涼しく害虫の被害を受けにくいという気候特性を持っているため | 4. 一年を通じて暖流の影響を強く受けるため、冬でも雪が降らず温暖な気候が続くため |
|--|--|---|---|
- 問11 北海道の自然環境と産業に関連して、網走市や知床半島の沿岸で見られる冬季の自然現象と、その海域の特徴について説明した文として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 日本海に面しており、暖流の影響で冬も海水温が高いため、流氷が接岸することはない。 | 2. 太平洋に面しており、親潮（千島海流）の影響で一年中流水が漂い、大規模な稲作が行われている。 | 3. オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流氷がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。 | 4. オホーツク海に面しており、夏になると南東からの湿った季節風によって流氷が再び発生する。 |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。	それまでの「北海道旧土人保護法」は、アイヌの人々を日本人の中に同化させることを目指した法律であり、アイヌ独自の文化や言語は否定される傾向にありました。アイヌ文化振興法の制定は、そうした同化政策から、多文化共生社会の実現に向けて、アイヌ独自の民族的誇りや文化的多様性を尊重する方針へと舵を切った重要な転換点となりました。
問2	答え 3 北海道全体の人口が緩やかに増加する中で、札幌市の人口はそれを大きく上回るペースで増加した。	数値データを確認すると、北海道全体では約1.3倍の緩やかな増加であるのに対し、札幌市は50年間で3倍以上に達しています。札幌市という一つの都市が、道全体の人口成長を牽引すると同時に、道内の他の地域から人口を吸収する形で拡大を続けてきたことが読み取れます。これが道内における人口集中の実態です。
問3	答え 2 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。	積雪寒冷地における交通の安全を確保するための工夫を問う問題です。地面に設置する通常の反射板や白線だけでは、深い積雪や激しい吹雪（地吹雪）の際に視認できなくなります。固定式の標識を高い位置から吊るすように設置することで、雪の影響を受けずに「ここから先は路肩である」という情報を運転者に提供しています。
問4	答え 2 長距離の移動となるため、速達性に優れた航空機の利用が主流となっているが、新幹線の延伸などにより鉄道も重要な役割を担っている。	日本の長距離旅客輸送では、目的地までの所要時間を短縮できる航空機が大きなシェアを占めています。特に東京から北海道への移動では航空機の利用が圧倒的ですが、北海道新幹線の開業など鉄道網の整備も進められており、天候の影響を受けにくい安定した輸送手段として鉄道も並行して機能しています。他の選択肢にあるような「鉄道への完全な転換」や「航空機の利用制限」といった事実は現在の日本にはありません。
問5	答え 3 飲用牛乳は加工品に比べて製品の鮮度を保つことが重視されるため、大消費地に近接した地域で生産されている。	生乳の生産と流通には、製品の性質に応じた明確な特徴がある。牛乳（飲用）は液体であり、品質を維持するために鮮度が極めて重要視される。そのため、輸送時間を短縮できる大消費地の近郊で生産・処理される傾向が強い。一方、バターやチーズなどの原料となる加工用生乳は、広大な土地を持つ北海道が生産の約9割を占めている。加工品は飲用牛乳に比べて保存性が高く、遠方からの輸送にも適しているため、土地条件の有利な北海道での大規模生産が可能となっている。
問6	答え 4 洪水の被害を軽減して水を速やかに海へ流し、泥炭地を排水して農地を拡大するため。	石狩平野のような低湿地では、かつて河川が激しく蛇行していたため、大雨のたびに氾濫による深刻な洪水被害が発生していました。流路を直線化する工事（ショートカット）を行うことで、増水した河川の水を速やかに海へ排出できるようになり、治水機能が向上しました。これにより、もともと水分を多く含んでいた泥炭地の排水が進み、碁盤目状の区画を持つ大規模な稲作地帯などの農地へと転換することが可能になりました。
問7	答え 2 広大な土地を活用した大規模経営が可能であり、冷涼な気候が稲作よりも乳牛の飼育に適していたため	北海道の農業産出額において畜産の割合が高いのは、土地の広大さと気候条件が関係しています。特に根釧台地は冷涼なため、かつては米作りが困難な「冷害」に悩まされてきましたが、その広さを活かして牧草地を確保し、寒さに強い乳牛を育てる酪農へとシフトしたことで、大規模な食料供給基地となりました。他の選択肢にある「二期作」は温暖な地域、「東京への近接性」は近郊農業の解説です。
問8	答え 1 排水路を整備して水を抜き、別の場所から土を運び入れる客土を行う	石狩川流域に広がる泥炭地は、水分が非常に多く農業には適さない土地でした。そのため、開拓にあたっては排水路を設けて湿地の水を抜くだけでなく、他の場所から性質の異なる土を運び入れる「客土（かくど）」という作業が行われました。これにより、もともとの泥炭地は稲作などが可能な広大な農地や、人々が暮らす市街地へと作り替えられました。
問9	答え 4 石狩低地帯の東側には日高山脈が南北に走り、地域の地理的境界線となっている。	日高山脈は石狩低地帯の東側に位置しており、北海道を東西に分ける大きな壁のような役割を果たしています。他の選択肢に含まれる山脈は、いずれも本州に位置するものです。奥羽山脈は東北地方、飛騨山脈（北アルプス）や赤石山脈（南アルプス）は中部地方の山脈であり、北海道の地形説明としては誤りです。
問10	答え 1 内陸のため夏は比較的気温が上がり、稲の成長に必要な熱が得られる内陸性気候であるため	上川盆地は海から離れた内陸に位置しているため、夏は海沿いの地域に比べて気温が上昇しやすい「内陸性気候」の性質を持っています。稲の結実には夏の一定以上の高温が必要であるため、この気候特性が北海道での稲作を可能にしています。一方で、冬は非常に寒さが厳しく、積雪量が多いことも特徴の一つです。
問11	答え 3 オホーツク海に面しており、冬に押し寄せる流氷がプランクトンを運ぶため、豊かな漁場が形成される。	オホーツク海では、1月から3月にかけて流氷が接岸します。流氷には植物プランクトンが大量に含まれており、春に氷が溶け出すとそれらが一気に増殖するため、魚介類が豊富な好漁場となります。この特異な環境は、知床半島の自然保護や、網走・紋別などの地域の観光資源としても極めて重要です。